令和7年4月定例教育委員会会議録

日 時	令和7年4月18日（金） 午後1時30分～午後3時30分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階大会議室
出席委員	教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 内田 晴久 委員 牛田 洋史 委員 小泉 裕子 委員 大屋 崇
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 五味田 直史 教育指導課長 播磨 幸絵 文化スポーツ部長 宇佐美 高明 教育研究所長 市川 潤一 教育総務課長 三川 辰徳 生涯学習課長 水島 一葉 学校整備推進担当課長 内田 和裕 図書館長 山本 正則 学校教育課長 坂口 憲 教育総務課課長代理 高田 暁 学校給食担当課長 齋藤 佳織 教育総務課主査 廣田 達也 教職員課長 進藤 大輔
傍聴者	1名
会議次第	<h3>4月定例教育委員会会議</h3> <p>日 時 令和7年4月18日（金） 午後1時30分 場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会議録の承認</p> <p>3 教育長報告及び提案</p> <p>(1) 令和7年5月の開催行事等について</p> <p>(2) 秦野市議会第1回定例会会議報告について</p> <p>(3) 臨時代理の報告について</p> <p>ア 報告第6号 秦野市教育委員会事務局職員の任免について</p> <p>イ 報告第7号 秦野市教育委員会職員の任免について</p> <p>ウ 報告第8号 秦野市立幼稚園園則及び秦野市立学校教育施設の開放に関する規則の一部を改正することについて</p> <p>エ 報告第9号 秦野市学校文書等の取扱いに関する規程の一部を改正することについて</p> <p>オ 報告第10号 秦野市立公民館条例施行規則の一部を改正することについて</p>

	<p>(4) 大根中学校区学校整備懇話会における検討状況について</p> <p>(5) 園児、児童、生徒及び学級数について</p> <p>(6) 支援教育の現状と課題について</p> <p>(7) インクルーシブな学校運営モデルの実現に向けて</p> <p>(8) 令和7年度秦野こども未来づくり会議について</p> <p>(9) 令和7年度コミュニティ・スクールにおける学校運営協議委員について</p> <p>(10) 令和6年度卒業（園）式、令和7年度入学（園）式の実施状況について</p> <p>(11) 令和7年度学校における水泳指導業務委託の実証事業について</p> <p>(12) 教科学習支援員派遣事業の結果について</p> <p>(13) 第16回秦野市親子川柳大会の作品募集について</p> <p>(14) 図書館こどもの読書フェアについて</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 令和7年度教育委員会教育行政点検・評価について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
会議資料	別紙のとおり

佐藤教育長

ただいまから4月定例教育委員会会議を開催させていただきます。お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

まず、会議録の承認につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いします。

なお、非公開案件について、御意見、御質問がある場合には、会議終了後、事務局に申し出るようお願いいたします。

いかがでしょうか。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

特にないようですので、会議録を承認したいと思います。

それでは、次第の3、教育長報告及び提案について、各課からお願いいたします。

文化スポーツ部長

それでは、報告（1）令和7年5月の開催行事等について、私から御報告いたします。資料No. 1を御覧いただきたいと思います。

まず、学びの基盤プロジェクトということで、今年度は、4月21日の月曜日から5月23日の金曜日までの期間で、各学校に

において、小学校4年生から中学校3年生を対象に、国語と算数、数学の教科調査と諮問紙調査をC B T上、タブレット端末において実施いたします。その後、本年8月の結果のデータ報告を基に、各学校が分析検討会を行ってまいります。

次に、5月12日の月曜日は「よむよむDAY」になります。

5月14日の水曜日は、定例の教育委員会会議になりますので、御出席をお願いいたします。

次に、5月20日の火曜日、新採用・転任採用教員の研修会をこちら教育庁舎で実施いたします。新採用・転任採用教員が、本市の教育について理解を深めるとともに、互いの価値提案の場とするため研修を行います。

次に、5月23日の金曜日になります。はだのティーチャーズカレッジを開催いたします。臨任・非常勤職員等を対象に、教職員の魅力について考え、教育公務員としての自覚及び意識の向上を図るため実施いたします。

次に、5月23日の金曜日・30日の金曜日は、ブックスタート事業になります。4か月児健康診査の会場で、絵本の配付と読み聞かせを行います。

続いて、2ページ目を御覧ください。

次に、5月25日の日曜日になります。今年度第1回目のはだの生涯学習講座を本町公民館で行います。「缶詰ひとつで『養生ごはん』」と題しまして、観光アドバイザーで、国際中医薬膳管理師でございます久保奈穂実氏に、日々の疲れや不調を「薬食同源」の発想で改善する缶詰養生について、中国伝統医学の基本的な考え方とともに解説いただく講座を開催いたします。

次に、30日の金曜日は、定例記者会見になります。

同じく30日の金曜日ですけれども、首長と教育委員会が、教育施策の方向性を共有するために、今年度第1回目の総合教育会議を行います。御出席をお願いいたします。

最後に、中学校の修学旅行になります。今年度の各中学校の日程等は、その下にございます表を御覧いただきたいと思います。

以上が開催行事等になります。

私からは、(2) 秦野市議会第1回定例月会議について報告をいたします。資料No. 2-1を御覧ください。

項番1の議会日程につきまして、会期は、2月21日から3月24日までの32日間で、市長提案の議案として、令和7年度秦野市一般会計予算を定めることについて他26件、報告案件として、専決処分の報告について他4件ございました。議案につつま

教育部長

しては、いずれも可決でございます。その他、陳情9件の審議が行われました。

また、予算決算常任委員会、各常任委員会、一般質問等が記載の日程で行われました。

項番2の教育委員会に係る一般質問等についてですが、私からは、教育部関係について主な内容を説明させていただきます。資料をおめくりください。

最初に、代表質問ですが、全ての会派から部活動の地域移行、学校給食、学習用端末、特別教室や体育館における空調整備、放課後学習支援、学校水泳事業の民間委託実証事業など、多岐にわたり御質問をいただきました。

次に、資料8ページ、議案審議についてですが、議案第11号、秦野市立学校の設置に関する条例の一部を改正することについてとして、市立ほりかわ幼稚園を公私連携幼保連携型認定こども園として本年4月1日から移行することに伴い、同幼稚園を廃止するため改正したものでございます。中村知也委員、桑原昌之委員から記載のとおり御質問がございました。

次に、資料9ページ、予算決算常任委員会文教福祉分科会の教育費になります。石川潤委員をはじめ、8名の委員から御質問がありました。

御質問の内容ですが、教育支援助手、小学校給食調理室改修工事、インクルーシブ学校運営モデル、乳幼児教育センターなどについて御質問をいただきました。

次に、資料22ページ、一般質問です。風間正子議員をはじめ、9人の議員から御質問がありました。

御質問の内容ですが、乳幼児教育センター、給食費無償化、子どもの居場所、中学生に対する給食のアンケート、地域コミュニティー、教員採用試験、教育施設の維持管理など、多岐にわたり御質問をいただきました。

質疑応答の具体的な内容は、資料に記載のとおりでございます。私からは以上でございます。

文化スポーツ部長

私からは、議会の関係で、文化スポーツ部が所管しております教育費に係る質疑を報告いたします。資料No. 2の32ページ目の次が資料No. 2-2の1ページになりますので、めくっていただければと思います。

まず、代表質問では2名の議員から質問がございました。志政会の中村知也議員からは、報徳仕法に基づいてどのような取組をされるのかなどの質問がございました。続いて、2ページ目を御

教育総務課長

覧ください。ともにつくる秦野の桑原昌之議員からは、公民館のあり方等について質問がございました。

続いて、3ページ目を御覧ください。予算決算常任委員会の決算分科会になりますけれども、新年度の予算の審査に当たりまして、石川潤委員をはじめ6名の委員から、文化財保護管理経費や全国報徳サミット秦野市大会等について御質問がございました。

次に、6ページ目を御覧いただければと思います。一般質問になります。1名、古木勝久議員から、図書館の管理運営について質問がございました。

それぞれの質問の内容については、記載のとおりでございます。私からは以上でございます。

私からは、(3) 臨時代理の報告についてのうち、報告第6号から第9号までを御報告いたします。

まず、資料No. 3を御覧ください。報告第6号「秦野市教育委員会事務局職員の任免について」報告いたします。

1枚おめくりいただき、臨時代理書の理由の部分ですが、教育委員会事務局職員の任免について、市長部局の人事異動内示日程と整合を図るため、次のページ以降に発令内容を添付しているとおおり、3月21日付で臨時代理したものでございます。

次に、資料No. 4を御覧ください。報告第7号「秦野市立幼稚園教諭任免について」報告いたします。

1枚おめくりいただき、臨時代理書の理由の部分ですが、秦野市立幼稚園教諭の任免について、先ほどと同様の理由で、次のページに発令内容を添付しているとおおり、3月21日付で臨時代理したものでございます。

次に、資料No. 5を御覧ください。報告第8号「秦野市立幼稚園園則及び秦野市立学校教育施設の開放に関する規則の一部を改正することについて」報告いたします。

1枚おめくりいただき、臨時代理書の理由の部分ですが、ほりかわ幼稚園を本年4月1日から公私連携幼保連携型認定こども園に移行することに伴い、同園を廃止するため、3月25日付で臨時代理したものでございます。

具体的には、2ページ進んでいただきまして、規則の新旧対照表になりますが、それぞれ「ほりかわ幼稚園」の欄を削除したものでございます。

次に、資料No. 6を御覧ください。報告第9号「秦野市学校文書等の取扱いに関する規定の一部を改正することについて」報告いたします。

1枚おめくりいただき、臨時代理書の理由の部分ですが、統合型公務支援システムの見直しに伴うデジタル化の拡充により、文書連絡機能に電子決裁機能が実装され、本年4月から電子決裁機能を本格運用するため、3月25日付で臨時代理したものでございます。

具体的には、2ページ進んでいただきまして、規則の新旧対照表になりますが、左側の欄の下線の部分が追加した条文でありまして、内容としましては、これまでと同様に、市長部局の文書等の取り扱いに関する規定に準じることができるよう、読み替え規定を追加したものでございます。

説明は以上となります。

生涯学習課長

それでは、私から、報告第10号について御報告させていただきます。資料No. 7を御覧ください。

1枚おめくりいただきまして、臨時代理書を御覧ください。ボランティア活動の活性化を目的として、本市が主催又は共催する事業に参加していただいたボランティアに、感謝の意を込めて地域貢献券を紙で配布しておりました。昨年10月1日に秦野市の電子地域通貨OMOTANコインを開始し、行政からOMOTANポイントを付与することが可能になったことから、今年4月1日から、地域貢献券の紙での配布がOMOTANポイントへの付与に移行となり、秦野市地域貢献券の交付等に関する規則が廃止されました。それに伴いまして、地域貢献券の公民館の使用料としての使用も終了することから、秦野市公民館条例施行規則の一部を改正しましたので、資料のとおり、臨時代理について報告をするものです。

以上です。

学校整備推進担当課長

私からは、(4)大根中学校区学校整備懇話会における検討状況について御報告いたします。資料No. 8を御覧ください。

本日の資料につきましては、本年1月の教育委員会会議において御報告した内容に令和6年度末までの取組を追記させていただきましたので、再掲させていただいた部分については省略させていただきます、新たに追加した部分を主体に御説明させていただきます。

まず、項番1、懇話会の委員についてですが、特段の変更は生じておりませんが、懇話会による意見交換の中で、現場の教職員の意見を伺いたいというような御要望があったことから、第3回以降の懇話会には、各校から2名程度の教職員に御参加いただいております。

次に、項番2、懇話会の開催状況につきましては、次ページまで記載させていただいているとおり、これまで6回開催しております。1月の教育委員会会議では3回目までの状況を御報告いたしましたので、第4回目の視察から御説明させていただきます。

4回目は、小学校と中学校の校舎を一体的に建築し運用している川崎市立はるひ野小学校、中学校を視察いたしました。視察には、懇話会委員のほか、懇話会に出席している市職員、そして、各学校の教職員数名が同行させていただきました。

第5回目は、テーマを学校と公共施設の複合化といたしまして、本市の公共施設再配置や大根公民館の現況について所管課等から御説明し、また、学校施設と公共施設の複合化に精通されている筑波大学の丹間教授によるお話をいただいたうえで、意見交換を行ってきました。

第6回目は、令和6年度の総括、令和7年度の実施について、意見交換を行っていただきました。

次に、3ページ目の項番3になります。懇話会での主な意見になりますが、令和6年度の懇話会におきましては、学校制度のあり方、新たな学校施設の敷地、望ましい公共施設の複合化の3つをテーマにしまして、一定の方向性を示していただきたいと考えておりました。

まず、学校制度のあり方については、義務教育学校に対する期待が大きいという意見が大半を占めておりまして、2点目の新たな学校施設の敷地につきましては、やはり広い敷地を求める意見が多く、大根小学校、中学校の敷地の一体的な活用が良いのではないかという結論でございました。また、3の望ましい公共施設の複合化では、子どもや高齢者などの居場所、地域の交流の場など、複合化は様々な側面から期待できるとの意見が示されたことで、大根中学校区の新たな学校整備に当たっては、3つの小中学校を義務教育学校として、現在の大根小中学校敷地に一体的に整備するとともに、公民館などの機能を複合的に整備していくことを期待していることが確認できました。

次に、項番4の今後の取組ですが、課題に対する意見交換といたしまして、これまでの懇話会において出された通学距離の問題、そして跡地利用、安全対策といった課題について、解決の糸口を見出すために更なる意見交換を行いたいと考えております。

次に、学校施設の具体的な検討としまして、整備構想策定に向けて、より具体的に、学校の中のつくり方など、懇話会だけではなく、教職員、子どもなどからも意見を伺いたいと考えておりま

す。

続いて、(3)の様々な方への意見聴取といたしまして、先ほどの項目と若干重複いたしますが、懇話会のみならず、様々な方からも意見を伺いたいと考えておりまして、部会の下部組織となる教職員、子ども、保護者、地域など、各部会の取組を進めていきます。

最後に、提言書の作成ですが、本年9月ごろまでに懇話会からの提言書をいただきまして、市として、本年度内に整備構想の策定を進めていきたいと考えております。

私からは以上です。

教育総務課長

私からは、資料No. 9を御覧いただきたいと思います。令和7年度園児数及び学級数についてのうち、幼稚園及びこども園に関する部分について報告いたします。

時点は、4月1日時点でございます。幼稚園6園及びこども園5園の教育利用園児数は、前年度に比べ100名減少し、294人となっております。このうち統合教育を行う園児は61人で、その割合は20.7%でありまして、前年度に対し5ポイント増加しております。また、学級数については30学級であり、前年度から2学級減少しております。

詳細の内訳につきましては、次のページの添付資料のとおりでございます。

説明は以上となります。

学校教育課長

続きまして、私からは、同じく資料No. 9、児童生徒数について御報告いたします。

こちら、令和7年4月1日現在となっております。小学校につきましては、児童数が、普通学級は6,287人、221学級で、前年度に比べまして、児童数は306人の減、学級数は10学級の減となっております。小学校の特別支援学級につきましては451人、80学級で、児童数は23人の増、学級数は7学級の増となっております。

また、中学校の生徒数ですけれども、普通学級は3,623人、107学級で、前年度に比べまして、生徒数は22人の減、学級数は1学級の減となっております。中学校の特別支援学級につきましては、188人、37学級で、生徒数は8人の増となっておりますが、学級数は3学級の減となっております。

続きまして、外国籍等の児童生徒でございますけれども、小学校が147人で、前年度に比べまして6人の増、中学校は81人で、こちらも小学校と同じく6人の増となっております。

教育指導課長

また、通級学級ですけれども、小学校5校で122人、10学級で、児童数は17人の増、学級数も1学級増となっております。中学校の通級学級につきましては、新たに東中学校に開設しております、実施校が1校増加して4校で実施ということになってございます。生徒数は14人増の73人、学級数は1学級増加しまして5学級となっております。

次のページには、学校別、学年別の児童数、生徒数、学級数の内訳を記載してございますので、御覧いただければと思います。

私からは以上となります。

私からは、(6)から(11)まで順次御報告いたします。

はじめに、(6)支援教育の現状と課題について、資料No. 10を御覧ください。

項番1の(1)を御覧ください。教育支援協議会につきましては、令和6年度は年間5回の開催で、211名を対象に審議を行いました。

(2)の教育支援協議会運営上の成果についてを御覧ください。市全体の児童生徒数が減少している中においても、令和3年との比較でも、特別支援学級在籍児童生徒数は増加しております。審議件数は、令和3年度が174件に対して令和6年度は211件と増加しております。障害者差別解消法にあわせて、平成28年度から、教育支援協議会のあり方についての見直し、検討を進めてまいりました。本人、保護者にとっても、安心して就学が迎えられるよう、体制を大幅に変更し丁寧な審議となるよう努めており、引き続き合理的配慮の実現を目指してまいります。

次に、項番2の通級指導教室入級審査会の開催状況と成果についてを御覧ください。令和7年度からは、小中一貫教育の観点から、義務教育学校モデル校となる東小学校、東中学校において、一貫した効果的な支援が行えるよう、同一の通級指導教室担当者として、元本町小学校長の近藤先生を配置しております。今後は、今年度の成果を踏まえて、大根中学校区、北中学校区でも順次体制の整備に努めてまいります。

具体的な数字についてですが、小学校通級審議人数は、令和3年度は91名のところ、令和6年度は95名、中学校は、令和3年度17名のところ、支援の拡充が進んだことにより、令和6年度は63名でした。

課題としましては、より専門的な知識やスキル、丁寧な支援が求められる状況において、特別支援の免許状保有者が、全国と同様に2割に留まっているため、特別支援教育コーディネーターを

4名に拡充し、教職員や保護者からの相談に応じられる体制の整備に努めてまいります。

続きまして、(7) インクルーシブな学校運営モデルの実現に向けて、資料No. 11を御覧ください。

インクルーシブ教育の充実については、3月の教育委員会会議でも御報告させていただきましたが、末広小学校でのインクルーシブな学校運営モデル事業の研究の一環として、先進事例となる大阪府豊中市教育委員会への視察を実施いたしました。豊中市では、人権教育の視点に立ったインクルーシブ教育を50年以上も前から推進しており、「ともに学び、ともに育つ教育」はスタンダードになっております。視察先の豊中市立桜井谷東小学校では、特別支援学級に在籍している児童も、基礎的な環境整備や合理的な配慮をどう提供するかといった教職員の意識や教材の工夫により、1日のほとんどの時間を通常の学級で過ごしております。

本市でも、「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育の実現に向けて、今後も研究を続けてまいります。

続きまして、(8) 令和7年度秦野こども未来づくり会議について、資料No. 12を御覧ください。

令和5年度から、いじめを考える児童生徒委員会を発展させ、秦野こども未来づくり会議と名称変更し、児童生徒の新たな意見表明の場となっておりますが、今年度も、項番2の構成、3の内容に沿って、年間3回の開催を予定しております。

また、今年度は市制施行70周年の節目にあり、さらには、第30回全国報徳サミット秦野市大会も開かれることから、報徳思想も取り入れたこども基本法の4原則のうち、「意見の尊重」と「最善の利益」が実現するよう、事業展開を検討してまいります。

今後、事業実施の詳細は都度御報告いたしますので、今年度も例年同様に、教育委員の皆様には、御都合に合わせ御参加いただけると幸いです。

続きまして、(9) コミュニティ・スクールについて、資料No. 13を御覧ください。

令和7年度コミュニティ・スクール対象校より、順次、学校運営協議会委員の推薦がございましたので、これに基づいた各校の委員となります。今年度の委員につきましては、会長も含めた自治会役員交代等に伴いまして委員に変更があり、各表には、変更された方に○が付いております。南と鶴巻も今年度の設置に向けて準備を進めております。

続きまして、(10) 令和6年度卒業(園)式、令和7年度入

学（園）式の実施状況について、資料No. 14を御覧ください。改めて、実施状況について報告させていただきます。

項番2を御覧ください。卒業式、卒園式、入学式、入園式ともに、従来型のステージで実施する園校もあれば、フロア形式で実施しているところもございます。

項番3、実施状況、（1）卒業式、卒園式の当日の状況といたしましては、卒業生や在校生のメッセージの録画や行事などの思い出映像を流すなど、各園校で工夫が見られました。式中には適度な緊張感がありながらも、落ちついた厳粛な雰囲気の中、式は進行したとのことですが、小中学校では、天候の悪さにより寒さ対策に課題が残ったとの報告を受けております。

2ページ目には、来賓などの感想を記載しております。「落ち着いた雰囲気でもよかった」や、式中の歌について、「気持ちを込めて歌っていることが伝わってきて感動した」などの感想がありました。

（2）入学（園）式の状況では、落ち着いた様子で式が実施されたとの報告があり、会場は季節感ある温かい雰囲気であったとのこと。小中学生全員参加は1小学校のみで、他は、一部の学年や代表生徒の参加となっております。

今後の課題といたしましては、中学校では、当日雷雨となったため音響機材の課題が出たとの報告を受けております。また、在校生の参加等も含め実施方法を今後も検討する必要があると考えております。

続きまして、（11）令和7年度学校における水泳指導業務委託の実証事業についてを御覧ください。

平成30年度から、児童生徒の泳力向上並びに働き方改革の観点から、水泳指導業務の民間委託の検討を進めてまいりましたが、近年の温熱環境の変化を踏まえ、今後の水泳授業のあり方について、教育水準の改善・向上に向けた取組にもつながるよう、実証事業として実施してまいります。今年度は、渋沢、末広、大根、広畑の4小学校と南が丘中学校の5校で実施し、実証効果を確認しながら拡充していきたいと考えております。

以上です。

私からは、（12）教科学習支援員派遣事業の結果について御報告いたします。資料No. 16を御覧ください。

本事業は、東海大学の教員を目指す大学生が、学校現場に行き、教育活動を支援していただくという事業です。平成25年度に、現在教育委員をお務めいただいております内田委員の御支援もあ

教育研究所長

って始まりまして、現在まで継続して実施している事業です。

まず、項番1と2を御覧ください。昨年度は22名の学生から参加の申込があり、活動をしていただきました。

次に、項番3を御覧ください。昨年度、本事業に参加いただいた学生の事後のレポートを抜粋して載せさせていただいております。内容としましては、「生徒の様子や関わり方、また教員としての目線など、挙げ切れないほどの学びがあった」といった前向きな感想が寄せられております。

また、派遣先の各学校からも、2ページ目の項番4にありますように、「学生が児童生徒と積極的に関わり関係を築いてくれたことで、教育活動の充実につながった」といった報告も受けております。

一方で、項番5の近年の派遣人数の推移を見ていただくと分かりますように、昨年度は、こちらからの学生への周知の準備などが遅れたことで、学生の申込人数が大分減少してしまいました。今年度は、この反省に基づきまして、学生への周知がしっかり図られるよう、年度内から大学との打ち合わせ等を進めさせていただいております。ちょうど今週の月曜日に学生の方への説明会に伺ったのですが、およそ70名から80名程度の参加がありまして、この中から今年度は多く申込をいただけるのではないかと期待しているところです。

今後については、引き続き大学と丁寧に連携を図りながら、事業の充実をめるとともに、東海大学の児童教育学部との連携も含めまして、新たな枠組みづくりについても模索をしてみたいと考えております。

私からは以上となります。

生涯学習課長

それでは、私からは、(13)第16回秦野市親子川柳大会の作品募集について御報告いたします。

親子川柳大会は、川柳で家族のふれあい、絆を深めていただく家庭教育支援事業として、また、学校教育と社会教育の協働推進事業として、毎年、学校に御協力いただきながら、昨年度は過去最多の1,436件の御応募がありました。

今年度も、市内在住、在学の小中学生とその家族を対象に作品募集をいたします。今年度のお題としては、自由題のほか、秦野の好きなどころ、10年後の自分、新緑、自然、雨の日、また、11月1日に開催いたします全国報徳サミットの開催に関連しまして、報徳思想を課題とする予定です。

募集期間は5月1日から9月2日までとなりますが、昨年度ま

での2部形式で募集しておりました形態を、実行委員会等からの御意見もございまして、5月1日から9月2日まで通して募集したいと思っております。

表彰式は、昨年度初めて市のPTA連絡協議会との共催により、市のPTA大会と家庭教育支援講演会とあわせて保健福祉センターで開催いたしました。今年度も、昨年度と同様に、令和8年1月17日に保健福祉センターで表彰式を実施したいと考えております。

資料の3ページの項番9、市制施行70周年記念動画のところを御覧ください。こちらは、市制施行70周年の記念事業といたしまして、親子川柳大会のPR動画を作成いたしました。過去の入賞作品を用いて、県立秦野曾屋高校の生徒が川柳の読み上げをして、市民ボランティアにイラストを描いていただき、生涯学習課の職員が動画の編集を行い、ゼロ予算という形で、手作りで作成した動画になります。5月1日から、作品募集にあわせて、現在最終準備中でございますが、秦野公式ユーチューブのモーピックで公開していく予定です。

引き続き、親子川柳を多くの方に知っていただき、御応募いただけるように、学校や市のPTA連絡協議会等にも御協力いただき取り組んでまいりたいと思っております。

図書館長

私からは、(14)「図書館こどもの読書フェア」について御説明させていただきます。恐れ入ります、資料No.18を御覧ください。

毎年、春と秋に読書週間がございますが、春は、子どもを対象としたもので、4月23日を「子ども読書の日」、また、23日から5月12日までを「こどもの読書週間」といたしまして、今年は、「あいことばは ヒ・ラ・ケ・ホ・ン!」というキャッチフレーズのもと、全国の図書館や書店で読書を推進する様々な行事が行われます。

本市立図書館では、親子での来館を促しまして、多くの子どもたちに読書に親しんでいただくため、また、読書のきっかけになるようなイベントを開催いたします。開催期間につきましては、こどもの読書週間に合わせまして、資料に記載してございます企画展示やおはなし会、プログラミング体験などを行う予定でございます。

図書館からは以上でございます。

佐藤教育長

今日は少しボリュームがありますが、ここで一旦報告は終わりですね。

それでは、3つに分けて御意見、御質問をいただこうかと思
います。3の(1)、(2)5月の開催行事と議会報告、まずここ
で1度まとめて御意見、御質問をいただこうと思っています。次
に、(3)から(5)、教育総務課、生涯学習課、学校教育課と
いうことで、臨時代理の報告を含めて(3)から(5)までを2
つ目のカテゴリーとしたいと思います。最後に、まとめて(6)
から(14)まで、教育指導課と図書館までのカテゴリーで御意
見をいただこうと思っています。よろしくお願ひします。

その後まとめて、最初のところで言いそびれたことがあれば、
そこでまとめて伺いたいと思います。

それでは、まず3の(1)、(2)5月の開催行事及び議会報
告につきまして、何か御質問、御意見等ありましたらお願ひし
ます。

内田委員

議会報告について、いくつかお聞かせいただきたいところをご
ざいますが、はじめに資料の29ページの吉村慶一議員のところ
の公立幼稚園・こども園の計画的廃止と保育職のリスクリングと
いうところですが、教育部長の回答で人口推計の数字が出てい
るのですけれども、2023年、24年、30年、35年と、これ
をそれぞれの年齢で見っていきますと、徐々に秦野市の子どもた
ちの数が増加しているという数字になっています。これは、期待
的な数字なのか、それとも、今、実際に人口が増えていくとい
うところの拠り所というのでしょうか、この辺りは、どういったデ
ータに基づいているのかということをお聞かせいただければと思
います。

教育総務課長

教育部長が答弁した数字につきましては、本市の人口ビジョ
ンの政策人口に基づく推計になっております。政策人口につしま
しては、委員から御指摘いただいたとおり、希望出生率を踏ま
えて、国が申しております人口置換水準が2.07となりますけ
れども、その出生率に徐々に上げていく過程で数字を出して
おりますので、趨勢人口のものよりも若干高い値になって
おります。

佐藤教育長
内田委員

期待値という部分もあるのですかね。

実際こういうふうが増えていってくれるといいなと思
っているところですが、それをより確実なものとしていく
うえで、例えば、色々な施策があると思うのですが、
秦野市では、子育てが非常にしやすいということもある
と思うし、それから、秦野で子どもを育てるという
ことにメリットが非常に大きいというようなことが
世の中に広がっていくと、このように一層具体的
な数字になって出てくるのかなと思っています。

味で、ここの良さというものを積極的にアピールしていくことが大切なのかなと思った次第であります。

例えば、24ページに載っていますが、間地議員のはだのっ子eスクールの募集の一次質問で、ここで、例えば回答の中で、「オンライン上での支援から対面での支援につながった事例もある」とか、その次のところで、教育長だよりによる効果が上がっているとか、かなり細かい対応が具体的にしっかり行われている現状も非常に良い取組であって、こういったところをしっかりと効果を見ながらアピールしていくことが、人口増にもつながっていく、より良い教育の具体的な実施につながる取組になっていくのかなと思いました。

感想みたいところです。ありがとうございます。

佐藤教育長

それを裏付けるデータになるのかもしれませんが、毎年4月の児童生徒数から同じ年度の12月、1月の児童生徒数が増加しています。つまり年度途中で転入してくる子が多くて、良い傾向なのではないかと思っています。

ただ、今、内田委員からお話いただいたアピールしていくというのは、まだまだ足りないと思いますので、しっかりその辺りはアピールしていかなければならないと思っています。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

小泉委員

5月の開催行事予定の学びの基盤プロジェクトが、4月21日から5月23日にかけて行われるということですがけれども、4月14日から全国の学力テストが行われたということで、今日の新聞に問題と答えが載っているのですね。秦野市で行われる学びの基盤プロジェクトでの学力調査は、また違う問題でされるのですね。その学力調査も3年に1度、理科も入ってきていて、2025年度には中学校の理科をオンライン化、さらには26年度には英語の方もオンラインで行う予定、それから27年度には、小中学校の国語、算数、数学でもオンラインで実施されるということで、その中に書いてあったのは、個々に応じた問題で、人によって多少問題を変えていく。色々な種類の問題を子どもたちに解かせることで、広い範囲の課題を把握できるようになるということが書かれていて、なかなか色々な点で進んでいくのだなと思いつつながら、その辺りの経年、経過で子どもたちの結果を追っていくこともできるというようなことが書かれていました。

全国の学力テストと学びの基盤プロジェクトの問題が違うというお話を聞きまして、秦野市でもその辺り、C B T化などもまた

教育指導課長

視野に入れながら行われていくようになるのかな、というところがお聞きしたいところです。

御質問いただいたところですが、実際に全国の学力テストの結果が、無事にC B Tで行われたという報告が今日、全ての中学校から入りまして、順調にC B T化は進んでいると考えていますが、学びの基盤プロジェクトにつきましては、非認知能力に着目していきまして、経年変化を見ながら子どもたちの成長を見ているところです。こちらも全てC B Tで行うことができまして、もう既に今年度、広畑小学校でも始めているところですが、特に問題なく実施できていて、子どもたちも、教職員も、少しずつC B T化には慣れてきているのかなと感じております。

設問につきましても、様々なところで子どもたちの現状ですとか課題というものが市としても把握できることになっておりますので、今後につなげていきたいと思っております。

佐藤教育長

全国学力学習状況調査が学びの基盤プロジェクトに、近づいてくるのではないかと考えています。国全体の流れで、ここまでであれば表現していいと考えて今話していますけれども、恐らく学びの基盤プロジェクトの取組に、全国学力学習状況調査が近づいてくると思います。

今、小泉委員が言われたように、全国学力学習状況調査は、今は同じ問題でやっていますが、何年か後は、この学びの基盤プロジェクトのように、一定期間に違う問題で解いて、それが項目別反応理論という、TOE I Cなどは恐らくそうだと思うのですが、色々な問題で、難易度が同じ別の問題という考え方を、もうありとあらゆる資格試験の中でそういう概念が取り入れられているので、全国学力学習状況調査も、今行っている学びの基盤プロジェクトの考え方に恐らく近づいてくるといのが、国全体の流れです。

ですから、学びの基盤プロジェクトは、日にちはずれていますけれども、違う問題なのです。ですが、難易度は同じという科学的根拠に基づいて実施しているということであると、全国よりも先に行っていて、我々はもうC B Tにも取り組んでいます。ですから、全国はその流れに、追いつくという言い方は適切ではないですけれども、なってくるだろうという動きの中で、全国を見ても、自治体の数としてはかなり少ない自治体で、先行してやっているということです。

他はいかがでしょうか。

牛田委員

議会報告の代表質問ですが、少し気になったことが1つありま

す。1ページの、八尋議員の質問の中で、給食での地産地消の食育のお尋ねがあります。この地産地消のことについて、地場産率の向上という部分ですけれども、教育長答弁の中でそこに書いてあるような形で答弁されていますが、昨今の野菜の高騰あるいは天候不順による生産量の減少等、学校給食への調達について、昨年度から今年にかけて影響はなかったのか、少し心配になったのですが、状況をお聞かせください。

学校給食担当課長

地場産率につきましては、今、令和6年度の集計をしているところではありますが、今、正確な数字はまだ出ておりませんが、令和6年度の給食を作っていく中で、やはり天候不順や暑さ、大雨などで、地場産の野菜はかなり影響を受けたという認識はあります。

こちらの中学校給食は、特にJAに入っていて、できるだけ地場産の野菜を入れていこうということでやっていますが、なかなか思った時期に思ったような地場産が入らなかったというところも実際あったというのが、令和6年度に学校給食を担当して実感している状況でございます。

佐藤教育長

ただ、JAが間に入ってくさっているんで、地場産が入らなければ、他の産地から揃える、そういう食料安全保障というのですか、それは、やはりJAが間に入っているんでできているかと考えています。

ただ、小学校の方も、八百屋さんがきちんと入れてくれているので、特段大きな影響はなかったけれども、やはり天候不順でありますから、努力をしてくれていると考えています。

他はいかがでしょうか。

内田委員

議会報告の17ページ、災害共催掛金のところで、令和6年度の事故の件数が、小学校で骨折が28件、中学校で骨折が37件という数字が出ているのですけれども、第一印象、結構件数が多いのではないかと思ったのです。この数字は全国と比べて平均的なのか、あるいは、昔と比べると最近増加傾向にあるのかなと感じたりもするのですが、給食での栄養バランスでカルシウムをもっと摂らなくてはいけないなど、何かそういったことにつながってくるのかどうか、その辺りを教えていただければと思います。

学校教育課長

実は、全国と比べてというのは私どもでも把握してはいないところですが、特に中学校につきましては、部活動があるということだけでけがが増えてくると思います。例年と比べたときに、この数が特別多いということでもないという認識は私の方でも持っております。児童生徒合わせて1万人以上いる中で、どうしてもけが

佐藤教育長

で骨折や捻挫ということが出てくるかと思っております。

また、もし全国との比較が分かれば、次回、報告をお願いします。

よろしいですか。

他はいかがでしょうか。

牛田委員

代表質問の2ページ、小山田議員のお尋ねの中で、児童生徒に1人1台の学習用端末を貸与しているが、その課題や改善点についてというお尋ねがあります。課題の部分で、私も以前触れさせていただいたのですが、学校教育のICT化やデジタル化というのは、この時代の流れに抗うことはできないですが、昨今の教育現場では、教師も児童生徒も端末やタブレットに集中してしまいがちで、人の表情から感情を感じ取ったりする場面が少なくなってきたのではないかと、このような声を聞いたことがあります。

実際、それに類することとしては、私も病院に行きますと、ドクターが、患者を診る時間よりもパソコンのデータや画面を見る時間の方がよほど長くて、学校現場でも同じような現象が考えられるのかなと、少しそのようなことを心配したりもしました。

また、以前、内田委員も同じようなことを指摘されまして、いわゆる端末を利用した不登校児童生徒の指導のあり方について、対面での支援も大事ではないかということについて、昨年度に指摘があったかと思えます。

私としては、端末を教育ツールとして活用しつつも、人と人との関わりからの学び合いや心の育ちを頭の片隅に置いて、端末を利用していただきたいと思っていますところでは。

当たり前のことで、各先生方、そういったことは承知されていることと思いますが、端末の向こうには人がいる、人を意識した中で端末を利用する、そういうことをこれからも大事にしてほしい、そういう感想です。

教育研究所長

学校で使っている端末については、私たちとしましては、あくまで学習のツール、学習を非常に効果的に進めることができるツールと認識しております。それが、人と人とのコミュニケーションですとか、今までやっていた教科書やノートを中心とした学習活動と相反するものではなく、それぞれの良さを今後も生かして活用していくことが重要であるということを学校にも伝えながら、活用を図っているところです。

また、不登校の部分についても、対面でのコミュニケーションが大事というところはもちろん承知しておりますが、一方、フリースクールなどについては、なかなか対面でのコミュニケーション

ンが苦手な子が傾向として多いので、そういった子へのコミュニケーションの入口として対面のツールを使うことは、非常に有効ではないかと判断しているところです。

このように、コミュニケーションを図るためにもという逆の捉えをして、有効に活用していけたらと考えているところです。

佐藤教育長

導入当初、私も見に行きましたけれども、既にそのときから、あくまでツールですよということは、当時の、茨城県古河市の担当者の方が言っていたので、私たちは最初からそのような意識でやっています。ただ、やはりこのところ報道等で反デジタルという動きが出ているのは当然承知していますので、私の答弁の後半部分は、はだのふるさと科の話になっていると思います。この前も、北幼稚園でささら踊りを実施しましたが、地域の御年配の方が、子どもたちをととても盛り上げてくださいました。

先ほども内田委員とお話ししたのですが、デジタル後の経験、自然体験や、そういったものの大切さは、我々は常に持ち続けなければいけないと思っています。ありがとうございました。

他はいかがでしょうか。

大屋委員

私も電子端末についてですが、我々も日常的にタブレットの端末を使う機会が多い中で、子どもの世界でもそういったところが身近になってきているところです。授業の中でどういうツールとしてうまく使えるかというのは、想像するだけになりますけれども、例えば、先ほどのささら踊りなどもそうですが、動画を繰り返し見られるとか、これがやはりデジタル端末でないと難しいとか、例えば形が変化していくものとか、ツールとして、どういう場面でこの端末を活用できるのかについて、どの程度整理されているのかをお聞きしたいのと、小山田議員の質問に対して、教育長が「通信環境が」という答弁がありました。この辺りは、先ほどの動画を見るとなると、さらに見にくくなることが考えられますが、その辺りの対応などがもし分かれば、教えていただければと思います。

教育研究所長

まず、ICT端末機器の授業の中で、ツールとしての活用の整理については、今、大屋委員がおっしゃった動画や形が変わっていくなど、やはり視覚的に捉えることが必要な学習内容については、大変効果的であると思います。例えば、数学だと図形の学習ですとか、体育では、例えば自分が運動した経過を動画に撮って、それをもう1回見直すことによって、改善点を自分で振り返ることができるといったような、視覚的な効果は大きいと思います。

それから、もう1つは、やはり協働的な学びというような言い

学校教育課長

方が大分広まってきておりますが、子ども同士で意見を交換するときなどに、このツールを活用することによって、例えば、タブレットの中で自分の考えをまとめたシートを友達同士で送り合っ
て意見を共有したり、あるいは、そのシートを使って、子どもが
クラスの中で発表をしたり、あとは発表の補助ツールといった、
活用をするうえで非常に効果があるのではないかと捉えておりま
す。そういったところを、今後もうまく活用していけたらと思っ
ております。

通信環境の部分につきましては、私からお答えいたします。

教育部長の答弁にもありますとおり、改善に取り組むというこ
とで、現在、各学校の通信自体は最大で1ギガバイトという帯域
を確保しております。ただ、あくまでも最大ということで、個々
の教室にもアクセスポイントが設置されていますが、電波干渉な
どの影響もあり、きちんとした通信が確保できないという影響が
出ているところがあるとも聞いております。

また、規模が大きい南小学校につきましては、物理的に容量が
足りないというところもありますので、今年度、増速対応する予
算を計上しております。

また、その他の学校につきましては、今年度補助金を活用して
各学校でアセスメント調査を行いまして、その結果を基に来年度
に向けて、予算の確保を含めて改善の方法を検討することにして
おります。

また、先ほどの御質問にもありましたC B Tが、今後益々取り
入れられることになると、1度にアクセスする子どもの数が学校
の中で増えていくことにもなりますので、通信環境というのは継
続的に増強を図っていくようなものであると、今のところは思っ
ております。施設に取り付けてあるW i - F i機器は、令和12
年度を目途に入れ替えていく予定で、元々の回線の契約である
とか、それから、その時期から数年後まで見通した必要な帯域の確
保なども含めて、今後も検討していく必要があると思っ
ております。

佐藤教育長

C B Tを導入して本市で独自にやっていますので、通信環境と
いうのは4クラス同時にC B Tを実施しようとする課題が出て
しまうので、もう先行して改善を図ってくれということはお願い
しているのです。ただ、大屋委員が言われるように、動画を全員
で見るとかなり動作が重くなるので、それは次の課題だなと思っ
ています。

他はいかがでしょうか。

牛田委員

3ページの中村議員の(5)の読解力向上ワークシートのことですけれども、その中で、教育長答弁の中ほどに、この取組によって「読解力だけではなく、表現力も高まるとの報告を受けている」というような答弁をされています。

私は、最近の子どもたちは、怒りとか苦しみ、悲しみ、あるいは嬉しいといった、自分の感情を言葉にするのが苦手だというようなことを、色々な紙面を通じて目にした訳ですが、自分の感情をうまく表現できない、そのことが、いわゆる校内暴力の発生件数の上昇にもつながっているのではないかと、このような指摘をされている学者もいます。

ですので、そういった意味においては、この読解力だけではなく、表現力も高まるというような実証的なデータもあるとのことですので、この読解力向上ワークシートの導入について、全校で取り組むように促していきたいという市の姿勢は、私はとても良いことだと思っています。

先ほど内田委員からも、本市の教育活動のあり方のPRポイントのたくさんあるうちの1つとして、これも加えていく中で、本市としては、様々な取組を通じて子どもたちの心の育ちにも力を入れているといった部分も、本市の特色ある教育活動のアピールポイントにもつながってくるのではないかと思います。感想です。

佐藤教育長

一昨日ですか、「クローズアップ現代」というNHKの19時半からの番組ですが、本市で御指導いただいている法政大学の渡辺弥生先生が出演されていて、東海大学の庄司一子先生と同じゼミの仲間ということです。今、牛田委員が言われたように、感情リテラシーということで番組の中で説明されていて、入口は闇バイトなのですね。闇バイトを防ぐということは、今、牛田委員がおっしゃった相手の感情を理解できない子どもが多いので、スマホ浸けということもあるかもしれませんが、その対策について、やはり自然体験が重要だとか、そういったことを番組の中でお話しされていました。もし機会があれば、見ていただければと思います。

そういった感情リテラシーということも、我々はデジタル以外の場所でもしっかりと取り組んでいくという考えがあります。おかげさまでNIE、新聞を使った教育活動も5校目。県内22校中、秦野市で5校実施するというところで、これも私はリアルな教育として非常に大事だと思っています。そのように、デジタルについても取り組んでいきますが、子どもたちの非認知能力を高め

るような取組は、きちんとやっていかなければいけないと思っています。ぜひ、全校でしっかり取り組めるように、教育指導課長の方から御指導をお願いいたします。

他はいかがですか。

内田委員

同じデジタルでも少し次元の違うデジタルの話で、資料No. 2-2の代表質問の1ページ、中村知也議員のはだの歴史博物館におけるデジタルミュージアムの整備についてというところです。デジタルミュージアムを整備していきますよという市長からの答弁があったと記載されていますが、まさにこれはMLAでしたか、ミュージアム、ライブラリー、アーカイブスがこのデジタル技術で今後一体化して、色々なところで画像を通して見られるようになるというのですが、例えば出土品などを色々なカメラで撮ってデジタルで見られる、そういうデータベースがこれから整っていくのだろうなと思いました。

そうしたときに、1つ1つの対象物について、例えば出土品であれば、いつの時代のどういうところから出て、どのようなものであるという説明が必ずつくと思います。これは恐らく、学芸員の方の仕事になってしまうのかもしれませんが、1つ1つの作品と他の物とのつながりに、何かそこにストーリーがあるようなものも入れ込んでいくと、非常に良いミュージアムが出来上がっていくのかなと少し思いました。そういったものを通して、この地域の色々な歴史ですとか、伝統とか文化とか、そういったものをより深く理解できるようなものを作っていけると良いのかなと、これは感想ですが、そう思った次第です。

生涯学習課長

貴重な御意見ありがとうございます。はだの歴史博物館に来られる方が、必ずしも歴史などに造詣が深い方だけではなく、この答弁にもありますが、子どもから大人までという、例えば歴史のことに詳しい方や、そうでない方も、来た方が見て、分かって、感じてもらってというところが、はだの歴史博物館の役割としては非常に大事かと思っておりますので、今の貴重な御意見は、デジタルミュージアムの整備の中では取り入れていきたいと思っております。

佐藤教育長

内田委員が言われるように、ストーリー性というのは非常に大事で、今日の午前中に東海大学の日比先生に来ていただいて、全国報徳サミット、東中学校の生徒、東海大学の学生、ソフトバンクと4者共同で何か取組ができないかということをお話しさせていただきました。やはりそこにストーリーが出てくると思います。どうしても我々は、報徳仕法という、ありきたりの話を子ども

たちにしてしまいますが、大学生がそこに絡むことで何か新しい付加価値ができないかということをお話ししたら、日比先生がとても前向きに取り組んでくれるということなので、生涯学習課長もよろしく願いいたします。

他はいかがですか。

牛田委員

生涯学習の関係ですが、資料No. 2-2の代表質問の桑原議員のお尋ねですが、南公民館の建て替えについて触れられています。そこに記載されているような理由から、現在の場所での建て替えを検討されているとのこと。まだまだ先の話になるのですが、現在の場所に建て替えるということは、今ある公民館の場所での公民館機能の代替等については、この時点でもう何かお考えがあるのか、これから検討されていくのかどうか、少し気になったのでお尋ねしてみました。

生涯学習課長

現時点では、隣地を活用しながら建て替えができるかどうか、今、関係部署等と調整しているところでございます。

佐藤教育長

代替の機能を確保するという事です。

では、一旦ここで、次に行かせていただきます。少しボリュームが多くてすみません。

それでは、(3)の臨時代理の報告から(5)園児、児童、生徒及び学級数について、大根地区の懇話会の検討状況も含めてですが、いかがでしょうか。

牛田委員

資料No. 8の大根中学校区学校整備懇話会の検討状況についての報告資料の中で、4ページの最後のところに、以前からの予定が示されていましたがけれども、懇話会としての提言書を令和7年9月頃までに、市に提出を目指しているということが記載されています。この提言書の中身をこれから整えていくのですが、実質、あと4か月から5か月間になるかと思いますが、この提言書の中身がどのような形で構成されていくのかが少し気になっているところです。提言書ということで、様々な考え方、意見があらうかと思えます。それらを羅列的に集約されて、それが提言書という形でまとめられていくものなのか、それとも、先ほど学校整備推進担当課長から、ある一定の方向性が示されつつあるというような説明もありましたので、大局的な意見も様々な論点からあらうかと思いますが、それらをまとめられていく中で、一定の方向性を示された中での提言書になっていくのかどうか、少しその辺りのところが、どのような形で体裁がまとめられていくのか気になったので、お尋ねしてみました。

学校整備推進担当課長

ただいまの質問でございすが、情報の羅列という形での提言

書という考え方ではないだろうと想定しています。懇話会が市内部の協議体ではなく、外部で組織していただいた協議体になりますので、どのような形にするかについては、ある程度アドバイスをしながら作成していくことにはなるとは思います。一定程度の方向性を、ある程度のカテゴリーの中でまとめていただいて、それを記載していただくという形での提言書になろうかと考えております。

佐藤教育長

学習会とともにグループ別で熟議をしていて、話を聞いて云々という会ではありませんので、その中でのやり取りを1つの方向性にしていくという形だと思えます。

牛田委員

分かりました。ありがとうございます。

いずれにしても、この大根中学校の取組が、みんなで考えるみらいの学校整備指針のこれからの事業コンセプトになってくるのではないかと思ったりもしています。ですので、様々な意見、考え方、思いがあろうかと思いますが、いずれにしても、最終的にまとめ上げられたものが、それぞれの皆さんに行き届いたときに、関係する方々が、自分の意見が大切にされているなど、全て100%通る訳ではないと思いますが、いわゆる提言書を読み深めていく中で、それぞれの皆さんの思いが、そういった形で大切にされているなということが伝わるような、そのような提言書としてまとめられたらいいかと思えます。

当たり前のことを私は言っているのですけれども、どのようなものができるのか期待しています。

佐藤教育長

ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

小泉委員

今の資料No. 8になりますけれども、川崎市立はるひ野小学校、中学校を視察されたということで、特に、はるひ野小学校の特徴的だったことや、秦野市でもぜひ取り入れたいというようなことがあったのかをお伺いしたいのと、もう1点は、4番目の今後の取組についてというところで、最後に「教職員や子どもなど、当事者の意見の聴取も実施する」ということで、先ほど、保護者等たくさんの方の意見を取り入れていくという話がありましたが、それはとても大事なことだと思っています。

義務教育学校の中で、インクルーシブ教育も視野に入れた、支援を必要とする親御さんの意見や要望等も組み入れていくと、インクルーシブの基礎的環境整備や合理的配慮の工夫などが、より具体的になってくるかと思えますので、先ほど説明があったように、色々な方面からの意見をぜひ取り入れていただけたら

佐藤教育長

と思います。

最後のインクルーシブは、御意見ということによろしいですか。それでは、まず、はるひ野市の印象的な点についてと、2番目は、教職員や当事者の子どもたちの意見について、もしイメージがあるのであれば、その辺りも含めてということですが、いかがでしょうか。

学校整備推進担当課長

まず、はるひ野小学校、中学校についてでございますが、これは、平成20年前後に開校された学校でございました。当時、まだ小中一貫校という制度もしくは義務教育学校という制度が、制度化される前に設立された学校でございましたが、実際視察をさせていただいて、現在の学校を検討するのにも非常に参考になる部分がありました。廊下の造り方の広さであるとか、それから、教室と廊下の間仕切りが全くなく、可動間仕切りで開閉できるような状態になっていました。また、授業の中でなかなか馴染むことができないお子様が、一時的に休息を取れるような場所が随所にあるなど、そういったところで合理的配慮がされているなという感触を受けました。

2点目の、今後の進め方の中で、私の方でもう少し掘り下げて説明すればよかったかもしれませんが、懇話会の下部組織という形で、保護者部会、子ども部会、教職員部会、そして地域部会を設立して、細かく意見を聴取していきたいと思っております。

先ほど牛田委員からもお話がありましたが、提言書の提出まで時間はかなりタイトな状況でございますが、地域の皆様方により多く知っていただいて、バックアップしていただけるような形で整備を進めていきたいと思っております。今後丁寧に進めていきたいと考えています。

佐藤教育長
大屋委員

よろしいですか。他はいかがでしょう。

私も同じく資料No. 8、大根中学校区学校整備懇話会についてですけれども、色々課題が見えてきていると思うのです。先ほど小泉委員からもありました、はるひ野小学校、中学校の視察、現に実際稼働されている小学校、中学校を見て、その課題というのが具体的に見えてきている部分があるかというところです。この資料を見る限りでは、課題というのは、そこまで大きな課題はないのかなと見えてしまいますが、実際はもう少し大変な作業が正直あるかと思っております。

そのように資料を見ると、そもそも「国の政策動向」と第1回に記載がありますが、義務教育学校とか、大根学区を中心に学校を整備していきますといった際に、概ね8割方賛成だよねと

学校整備推進担当課長

いう世界が構築されているのか、これ反対なんだよねという意見があるのか、その辺りは、今後この懇話会を経た後にあぶり出されてしまうとあまりよろしくないかと感じたので、課題のところを中心に、正直どんな課題があるのかというのは少し聞いてみたいと思った次第です。言える範囲で構いませんので、よろしくお願いいたします。

ただいま課題ということでお話がございました。視察に行きまして、はるひ野小学校、中学校の中で、実はソフト的な部分での課題というものはほとんど聞くことがございました。始める当初については、教職員の方々から不安の声が多数あったようですけれども、実際に運営を始めますと、学校行事等、小学生、中学生がともに行うことによって、異学年交流も盛んになり、非常に良い面が多かったということで、ソフトな部分で課題というものを感ぜられる部分はあまりございませんでした。

ただ、施設という面で考えますと、これははるひ野小学校、中学校だけに限らずですが、懇話会の中でもいくつか課題として考えていただかなければいけない、という意見をいただいています。その代表的なものが、やはり、学校を集約することによって、通学距離が延びてしまうお子様への対応です。それから、地元の方が気にされているのは跡地利用の課題です。現状ですと、広畑小学校を大根小・中学校の敷地に、一体的に整備するという方向性で懇話会では見解をいただいておりますので、そうなりますと、広畑小学校区の方にとって、その跡地はどうなるのかというところは、指摘事項として出ています。

それと、子どもたちがそこに集約されるということで、周辺道路の混雑などへの懸念の声が挙がっておりますので、新年度、そういったところを含めて、より議論を深めまして、先ほど申しました部会において、より広い方々から御意見をいただいて、課題という部分にしっかり対応していきたいと思っておりますのでございます。

佐藤教育長

視察された教育研究所長は、学校の先生として、ソフト面で、行政の方が見ても分からないけれども、学校の先生として見たときに何か課題を感じたことはありましたか。施設も含めて、ソフトも含めて、何かありましたか。

教育研究所長

私が感じたことは、平成20年にスタートしていて、かなり早い時期だったため、義務教育学校とは言わない、小学校、中学校という言い方をしているのですが、その時期にしては、まず、施設としては大変先進的な学校だったろうと思って見ておりました。

た。ただ、先ほど学校整備推進担当課長が申したように、子どもたちの生活を考えて、クールダウンする部屋などが随所にあって、それは非常に有効に働いている部分もあったかと思えます。一方で、物置になってしまっているようなスペースも実際にあったので、どこまでのことを実際の施設に生かしていくかというのは、ある意味、参考になるかとは感じていました。

それと、ソフトの部分では、義務教育学校としては特に学年の正確な区分けなどというところはないのですが、ただ、学年ごとに9年間を見通した形での区切りがありましたので、その部分で、これまでの6年間と3年間をどのように整理していくかというのは、はるひ野に限らず、これまで様々な義務教育学校等を視察させていただく中で、参考にしていかなければならないところはあるかと思っています。例えば6年生で、通常であればそこで卒業という区切りを迎えて、小学校6年間の最高学年として引張っていた学年、それが、義務教育学校になることで、その扱いがどのようになっていくかについては整理をしないと、地域、子どもたちも含めて、保護者等を含めて、そこは納得する形で進めていく必要があるかとは感じているところです。

私からは、公共施設の複合化の部分について少しお話をさせていただきます。視察に行った川崎市のはるひ野小学校、中学校は、施設の形がカタカナの口の字で、漢字でいうと口なのです。入口が限定されていますが、子どもたちと、小学校に併設されている市民センター利用者の入口は、主に1か所になります。それ以外にも入るところはありますが、主な出入口は、市民センターの事務所から窓越しに通る人が見られるような状態になっていて、防犯カメラだけでなく実際に人の目でもきちんと見えるようになっていて、安全対策が施されているという点で、参考にするべきだなと感じました。

本市としては、学校施設に公民館などの施設を複合化していきたいというような再配置計画上の位置付けがあって、大根の学校についてもそのようにしていきたいと思っておりますが、ただ一緒にするだけではなく、地域の拠点化を目指していきたいと思っています。

昨今、各地域の課題としては、地域コミュニティーが徐々に弱体化してきており、各地域の声を聞くと、若い人に地域の活動に参加していただきたいという課題があります。学校施設と公民館の機能を複合化することによって、地域の方々と学校が連携し、地域との交流の輪を広げることができるよう、地域に開かれた学

佐藤教育長

校整備を目指していきたいと考えています。

色々お話がありましたが、ソフト面だけで言うと、これは成功事例と失敗事例を私は一番よく見ていますので、失敗事例は、校長が早期に替わっている学校は失敗します。大阪がそうでしたけれども、9年間もその学校で校長先生をやられているので、義務教育学校化していくときに、ずっと同じ校長先生で、運営方針が一貫しています。地方を教育長会議で視察に行かせていただくと、2年ぐらいで替わっていて、その都度、学校の経営方針が変わるので、職員も困惑してしまいます。マネジメントを一貫して運営していくというのは、複合化の部分でもそうでしょうし、今、部長がおっしゃったように、建物が一緒になっても、きちんとコミュニケーションを取れるような形にしないといけないと思っています。そういう意味では、一番良いものを作っていこうという事務局の意気込みを私も感じます。

大屋委員
佐藤教育長

大屋委員、よろしいですか。

はい、ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

では、次に行かせていただきます。最後に、(5) 支援教育の現状と課題から(14)の図書館こどもの読書フェアまでになりますが、いかがですか。

牛田委員

資料No. 11のインクルーシブな学校運営モデルの実現に向けてという資料ですが、大阪府豊中市への視察ということで、この紙面を見てみますと、豊中市のインクルーシブ教育の(2)特別支援級の現状ということで、「視察先となった桜井谷東小学校の支援学級では在籍の児童はほとんどの時間を通常の学級で過ごし」という紹介があります。これは本当にすごいことだと思って感心してしまったのですが、こういったことから、豊中市が積極的に、もう長い歴史を重ねながらインクルーシブ教育を進められていることがよく分かります。特別支援級の子どもたちが通常級の子どもたちとともに、同じ空間、同じ時間をどういった形で学校生活を送っているのかというのが、朝の会から始まって、例えば図工とか体育とか理科とか、あるいは給食や清掃の時間もそうですが、どんな生活を通常級の子どもたちとともに送っているのかということが気になりました。

その辺りの様子を知りたいと思うのと、あわせて、学校の設備も何か工夫とか特段の配慮がされているのかなというところも気になるので、分かる範囲の中で、知っていられればお聞かせいただければと思います。

教育指導課長

子どもたちが、通常の学級の中で皆と同じように座って先生の話、先生の方を見て聞いています。それは、交流級の先生がやられる授業と一緒に聞いています。全ての時間同じことをするのが難しいお子さんもいるので、最初の導入のところで、同じように参加できる工夫を交流級の先生がされていました。デジタルを使って、ボタンを押して自分の意見を表明することができるなど、参加ができるような工夫をしていました。一緒にやる中で、その後、少し難しくなったり、少しクールダウンが必要だったりというような状況になったときには、自分ができる課題はすぐ準備ができていて、それをそっと自分で出してやったりとか、それも難しいお子さんは、一緒に付いてくださっている先生がいる場合と、先生がずっとそこにいる訳ではなくて、巡回をして、順番に回ってられる先生が気付くというような工夫をされているので、どのお子さんも、ほとんど通常の学級で過ごしていました。特別支援級で自立活動などを行う時間は、1日の中で多くても2時間ということで、ほとんどの時間は通常の学級で過ごしています。

一番大きいのが、通常の学級の先生たちの意識が、特別支援級のお子さんでも、自分たちのクラスの子どもと皆さん思っていられる、そこが一番大きいかと思っていて、一緒にやるのが当たり前だよねという感覚はすごく大事だなと思って見て参りました。

佐藤教育長

デジタル教材を導入しているというのが大きいかと私は思いました。特別支援級の生徒用のデジタル教材も準備していただけるということなので、今、無償で実証事業を検討はしていると思うのですね。ただ、今年、北中学校で国立特別教育政策研究所の指定を受けて、教職員の意識の高さということをやっていますけれども、目指すべきところは、この大阪府の学校なのかなと感じています。ただ、大阪府の学校も、それが100点だとは思っていないので、その辺りの課題も含めて視察していただいたことにはなります。

よろしいですか。

牛田委員

あと、もし出来れば施設上の配慮についてもお聞かせいただけますか。

教育指導課長

施設上の配慮については、恐らく、そのために作られたお部屋ではないのですが、小さな空き部屋や空き教室のところを、うまく仕切りを作って、例えばインスリンのポンプを押さなければいけないお子さんや、補食をしなければいけないお子さんが使えるようなお部屋を各階に準備しているなどしていました。ただ、

施設面では通常の学校を、配慮しなければいけないお子さんたちでも使えるように、先生たちの工夫でやっていらっしゃると感じました。

佐藤教育長

よく空き教室って、色々なことで教室を使いたいというオーダーをいただくのですけれども、空き教室ではないと私たちは言っているのですが、こういうように、万が一クールダウンの部屋が必要になる可能性があるので、そういう部屋を細かく作られているかなと私は報告を受けました。

他はいかがでしょうか。

小泉委員

これは感想ですけれども、資料No. 17、秦野市親子川柳大会の作品募集についてですが、9番のところに「PR動画を作成しています」と書いてありますけれども、もう実際にアップされていて、見せていただいたのです。昨日の段階で第15回まで入っていて、音楽が効果的で、すごくテンポ良く鑑賞できる良い動画になっていたのですね。先ほどおっしゃったように、高校生の声も、大人とは違って、少し子ども感もありつつで、2人の方が子どもになったり親になったりして読んでくださっているのですけれども、若々しさも感じられて最後まで見てしまいました。ありがとうございます。

佐藤教育長

私も今見たら、63回再生されているので、少ないなと思ったら、まだ7時間ですね。では、これから伸びていくのではないですかね。ありがとうございます。

他はいかがですか。

内田委員

水泳の件ですけれども、水泳指導業務の委託でスイミングクラブを利用するということですが、これはたしか移動にはバスを使われると議会で答弁されていたと思うのですが、どのようなバスを使われるのでしょうか。

教育指導課長

今回事業を受けていただいているチャンピオンスイミングクラブにはバスが既にありまして、そのバスを使わせていただくこととなっております。

佐藤教育長

当初は、令和3年度に1度アンケートした際に、バスがないと難しいとなりましたが、資料にも書いてありますが、その後、温熱環境の悪化がありまして、先生方も、やってみようというチャレンジになりました。

他はいかがですか。

牛田委員

資料No. 12の秦野子ども未来づくり会議のことですけれども、2ページの会議の年間計画の中に、11月に第30回全国報徳サミット秦野市大会があるとなっております。こういった大会とコラ

ボするような形でこども未来づくり会議も開催されるということで、私はとても良い発想かなと思いました。

そこで、「はだのこども報徳宣言」もここで紹介されるようですけれども、他に何か子どもたちが活躍できるような場面が色々工夫されているのではないかと思います、何か現時点で企画されているようなことがあったら、教えていただきたいと思いました。

佐藤教育長

先に、表現が上と下で少し違っていて誤解を与えてしまったのですが、まだ決定ではなく、全国報徳サミットの実行委員会が終わって、それが承認されたらということなので、これはまだ試案の段階ということになります。

そのうえで、現時点で考えている子どもの活躍する場ということになると、生涯学習課長お願いいたします。

生涯学習課長

全国報徳サミットの関係で、現時点の検討段階ですが、子どもに関わるような内容といいますと、報徳サミットの中で、全国からお越しいただく方がいらっしゃいますので、アトラクションという形で、秦野市の子どもたちに丹沢賛歌を発表していただくとか、あとは、サミットに向けて学習をしていただくのでその成果の発表や、報徳宣言を大会宣言として披露するようなことを考えているところです。

それと、5月20日頃に実行委員会がございますので、その辺りでまた内容が整ってくるかと思っております。

佐藤教育長

正式には実行委員会で御承認いただいてからだと思っておりますが、それとは別に、我々は昨年、市長とともに掛川市に視察に行かせていただいて、向こうの大日本報徳社の鷺山先生は、野菜部というのがありまして、野菜を作りながら報徳仕法を実践するというようなお話をいただきました。実は北中学校で、インクルーシブな部活ということで野菜づくりをしてはどうかと打診をして、サツマイモを、野菜部ではなくて野菜同好会として栽培し、出来たら販売までを特別支援級の子も含めてやりたいということは、校長先生からもオファーをいただいています。

いずれにしても、E4が応援にも行っていただいて、色々企画の段階から入っているということでもいいですか。

生涯学習課長

昨年の茨城県桜川市大会のときには、大屋委員も含めてE4の皆さんにも茨城県までお越しいただき、現地を見ていただきました。E4の方にも色々御協力をいただきまして、チラシであったり、秦野の水のペットボトルの啓発用のデザインだったり、色々サミットのことにお力をいただいておりますので、引き続き

佐藤教育長

よろしくお願ひいたします。

ありがとうございます。

他はいかがですか。

大屋委員

私も、秦野こども未来づくり会議なのですけれども、すごく楽しみにしています。先ほどの全国報徳サミットの報徳宣言を非常に楽しみにしておりますけれども、まだ未決定の部分があるのかもしれないかもしれませんが、せつかく報徳宣言を大事な年に出していただいて、大切なのは、報徳宣言を出した後、次年度以降、どうそれを教育の場に生かしていくのかというのが大切なのかと感じました。ぜひ、この報徳宣言を11月に出した際に、今後の予定というか計画というか、そのようなところも含めて宣言の中に入れていただけると非常に良いかと思いましたので、意見でございます。

佐藤教育長

今回、報徳仕法については、ふるさと科の主要コンテンツとしての位置付けがありますので、今、大屋委員からいただいた御意見を、教育研究所の方でふるさと科のコンテンツとしてどう定着させていくのか。また、大屋委員がおっしゃるように、子どもたちの宣言がその場限りではいけないと思いますので、以前、牛田委員から予算を計上してはどうかというお話もありましたが、そういった具体的な動きにしていかなければと思っています。教育研究所長、よろしくお願ひします。

他はいかがでしょうか。

小泉委員

とても小さなことになってしまうのですけれども、読書週間についてですが、恐らく色々な場所で催し物が行われるかと思えます。図書館においてパズルで題名当てクイズというのをされるのですが、この辺りも、図書館だけでなく、公民館辺りとも連携されて、結局、図書館までは親御さん頼りでなければ、なかなか行けないと思うのですね。公民館辺りだったら、ちょっと学校の帰りに寄れる子もいたり、近所のお子さんも来たりとか出来るので、その辺り、連携してこういうような催し物を市内一斉でできるような形にできないかなと1つ思いました。全部は無理だと思えますので、何かピンポイントで出来そうなことを連携して出来るといいかと思いました。

さらに細かいこととなりますけれども、パズルを完成させて、絵本の題名を当ててくださいとなっていますが、恐らく、パズルが完成する前に本の題名が分かっちゃうお子さんが出てくると思うのですが、その辺りは、その途中でもプレゼントを出してくださるのかなと1つ思いました。

それから、どうしても低学年のお子さんや幼児を対象にしてい

るようなものが増えてしまうので、できれば高学年とか中学生、もう少し上の学年にも何かヒットするような行事が1個でも持てたらいいのかなと思いました。なかなか難しいと思いますが、今年ということでないですが、どうしても高学年になると本から離れていってしまうお子さんが多くなってしまいますので、その辺りができると良いかと思いました。

図書館長

まず、貴重な御意見ありがとうございます。おっしゃられるとおり、図書館だけでは周知ができない部分もございます。今、委員がおっしゃっていただいた通り、本年はこういった形で実施させていただくのですが、次年度以降、色々な施設を連携先としまして、実施できるように検討していきたいと思っています。

2点目の、題名が途中で分かるお子様ということで、確かに、勘のいいお子さんや本をよく読んでいるお子さんなど、色々なお子さんがおりますので、そういった方に対してのプレゼントについても、正解が分かった時点でお渡しできることも含めまして検討してまいりたいと思います。

最後でございますが、低学年の対象が多いのではないかという御意見でございます。確かに、児童、低学年のお子さんを対象とした内容が多い状況でございますので、小学校高学年と中学生に対しましても、引き続き、本に接していただく機会を提案できればと思っています。

佐藤教育長

私も、出張開催というのは全く考えになかったので、ぜひ1回でも2回でもそういう取組ができると良いかと思います。我々としても、園長・校長会で参加を呼びかけますが、小泉委員おっしゃるように、子どもたちにとっては遠いですから、それが公民館で出来るようになるはずいぶん違うだろうと思います。本当にありがとうございます。

他はよろしいですか。

牛田委員

感想です。同じく資料No. 18ですが、図書館の関係ですが、この1ページの(3)企画展示2「言葉が違う、同じ内容の本を読みくらべてみよう！」ということで、これはなかなか面白いなと思います、これは、年齢がどのくらいの子どもたちを対象にしたかどうか私は分かりませんが、これって大人でも英語学習できるのではないかと思います。ユーチューブで「桃太郎」と検索してみましたが、桃太郎の英語バージョンがきちんと出てくるんですね。アニメで流れて、そして、英語版も出て、そして字幕も、少し見にくいですが、日本語訳の字幕も出てきました。これは、知っている人は上手に御家庭で使っているのではないかと思います。

佐藤教育長
牛田委員

もしました。ぜひアピールされるといいのではないかと思います。感想です。

ありがとうございました。

すみません、最後に1つ。資料No. 16ですが、教科学習支援員派遣事業の結果のところ、裏面に、今後の課題というところの最初の行に「課題としては、令和6年度は4月の説明会に参加した学生が非常に少なく」ということが紹介されています。これは私のつぶやきなのですが、これって、大学生で教職課程を実習する希望者がそもそも少なくなっていることが、1つの原因なのかと思ったりしたのですが、どうですか。

内田委員

まず、いくつか理由はあるかと思いますが、中高の免許を取れる教職課程を設置している学科が、2022年度の組織改正で少し減少しています。それが1つと、それから、2022年からは教職課程で児童教育学部ができて、小学校教員免許を取得できることができましたが、それがまだ、この4月から4年生が出てきた段階で、ちょうど人数的には変わっていないのかなという感じですが。中高は少し減って、逆に小学校が増えたのかなと、そのような感じですが。

もう1つ、少し別の理由があって、教職課程を取り仕切っている事務部門が、2022年度の組織改正の中で、カレッジ制といういくつかの学部に分かれてしまったのです。恐らくそこでの情報の伝達がうまく出来ていなかったのかなと、少し反省しているところでございます。

佐藤教育長

こちら乳幼児教育支援センターの立ち上げなどもあり、立て込んでいましたので、今年は70から80名という話ですから、志望者が減ったというよりは、そういうシステムのなところもあるのかなと思います。いずれにしても、既に改善を図っているところですが、よろしいですか。

牛田委員
佐藤教育長

分かりました。ありがとうございます。

ただ、この行事予定表の中に臨任、非常勤の研修が入っていると思いますが、議会の御質問の中でも、教員の倍率が下がっているのではないかと御心配いただきました。秦野市の場合は、東海大学の学生がいることと、恐らく、臨任、非常勤の研修をやっているのは、県内で本市だけではないかと思えます。そのように、一旦、臨任、非常勤を秦野市でやって、秦野市がこのような体制でやっていると説明すると、臨任、非常勤で登録に来てくれるので、そういう意味では良い状況になっているのではないかと思います。

教育総務課長

いずれにしても、市独自に努力していかなければいけないというのは議会の中でも答弁させていただいているので、議員からは御心配をいただいているのですが、我々としては、やれることはしっかりやっているということでもあります。

それでは、これで一旦終わりにさせていただいて、次に入らせていただきます。よろしいですか。

次に、協議事項に入りたいと思います。教育行政点検・評価について、説明をお願いします。

協議事項（１）の資料を御覧ください。令和７年度教育委員会教育行政点検・評価について御説明いたします。

まず、項番１の実施方針等についてですが、（１）の目的から（４）の点検・評価の進め方までにつきまして、例年と同様に進めたいと考えております。

次に、項番２の（１）教育施策点検・評価会議についてでありますけれども、委員の構成案を一覧表でお示ししております、区分の学校教育関係者につきまして、昨年度に引き続き、現職の校長や園長の負担軽減等の目的から、可能な範囲で元職の方を選任したいと考えております。

その他、評価の流れや総合評価の考え方につきましては、例年と同様で変更はございませんが、最終的な報告書の作成に際しては、昨年度に引き続き、評価シートの記載内容を分かりやすく簡略化できるように努めてまいります。

また、３ページ目の後ろに点検・評価対象施策一覧を添付しておりますけれども、こちらも経年変化を捉える関係から、これまでと同様の２０施策となっております。

最後に、スケジュール案を添付しておりますが、教育委員の皆様におかれましては、例年同様、７月中旬に学習会を開催するとともに、８月中旬に教育委員会会議の議案として御審議いただくこととなりますので、御承知のほどよろしくお願いいたします。

説明は以上となります。

佐藤教育長

説明が終わりました。御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

—特になし—

佐藤教育長

特にないようですので、その他の案件はありますか。

—特になし—

佐藤教育長
事務局

それでは、次回の日程調整をお願いします。

次回の教育委員会会議でございますが、５月１４日水曜日、午後１時３０分から、こちらの会場で予定しておりますので、よろ

佐藤教育長

しくお願いいたします。

事務局からは以上となります。

それでは、日程の確保をよろしくお願いいたします。

以上で4月の定例教育委員会会議を終了いたします。ありがとうございました。